



梶重 重男さん

羽沢在住

すわ・氷川森の会代表

「いつまでも残したい緑と自然」
地域の力がひとつになって

「年々減少しつつある、富士見に残る豊かな自然を守りたい」と
とりあえず始めた活動でした。

私が住む周辺には、諏訪神社や氷川神社があり、貴重な自然が残されていますが、活動を始めた平成10年ごろは、辺りに粗大ごみが捨てられ、子どものころに遊んだ杜とは違い荒れ果てていました。

一人ではできないので、まずは数人の知人へ声をかけ相談し、地域の方に呼びかけをすることから始めました。初めての取組みでしたが、そこに軍手・長靴姿で50数人の方が集まってくれました。活動を始めてから1年後、「すわ・氷

川森の会」が立ち上がり、その時の熱意は今日まで続いています。ごみ拾いや下草刈り作業を進めていく中で、キツツキやカワトンボ、サワガニなどの存在に気づいたりしました。境内に続く森は「雲居の瀧」と呼ばれる湧水もあり、杉やヒノキが植林されています。これまでの取組みによって以前の自然の宝庫としての姿を取り戻しつつあります。現在、ホタルが再生できないかと研究を進めていてその天敵となるザリガニの駆除を検討しています。

引き続き、会員やボランティアの参加により、市民の力で森を守り育てていきたいと思えます。また「この貴重な自然をいつまでも残したい」という初心を忘れず、子どもたちにもこの思いをつなげていきたいです。



歴・史・探・訪

ふじみ・発見!

28

市内の地名
南畑・東大久保地区②

先月号に引き続き、南畑・東大久保地区に残る地名について紹介します。

【内川袋】

難波田城を表した古絵図を見ると、城の西側を流れる川は「内川」と書かれています。現在の新河岸川にあたり、かつてはこの名で呼ばれていました。新河岸川はかつて「九十九曲り」と呼ばれるほど蛇行した河川でしたが、この屈曲して袋状になった地形からこの「内川袋」の名が付いたようです。旧地図と照らし合わせると、市役所から県道を南畑方面へ向かって進み南畑橋を渡った右手側の地域にあたります。

【馬場】

難波田城公園の北側を東西に走る県道を越えた地域にあたります。その名のとおり難波田城



に関連した地名で、中世武士が乗馬訓練などを行った場所であったことが伺えます。

【天神前・天神後】

難波田城公園の北東に天満宮(天神社)がまつられています。この天満宮の北側の地域を「天神後」、東側の地域を「天神前」と呼んでいました。この天満宮は古絵図「酒井家文庫 難波田城図」にも天神社をまつる天神曲輪として描かれています。このことから天神社の所在から起こった地名であることが伺えます。



難波田城公園の北東にある天満宮

【欠間】

旧地図によると、船渡橋の南側、旧荒川堤防の一角にあたります。「南畑村之沿革史」には、「天明六(1786)年の洪水には東大久保二ヶ所決潰し、其の間凡百間許り残した。依て欠間と称し小名となって…(省略)」とあり、堤防が2か所決壊して百間ほどの地域が残ったため、起こった地名ということになります。

【南畑界】

伊佐島橋を渡った上南畑と東大久保との境界周辺の地域にあたり、その名のとおり南畑と東大久保の境を意味する地名と思われる。慶安元年(1648)年の検地帳には「難島境」の文字を認めることができ、古くから村の境を表していた地名であることが伺えます。

問合せ／生涯学習課 文化財担当

049-256-17023